

## 源氏物語イメージの美術史的研究活動

渡辺 雅子

本題に入る前に私がなぜ外国で日本美術史を勉強することになったかを述べておきたい。1978年にカナダのバンクーバーへ移住後、プリティッシュコロンビア大学美術史学部に編入することにした。その理由は、日本の大学ではなまけものだった私がカナダの学生のように一生に一度思い切って勉強をしたいという気持ちにかられたこと、さらに日本では西洋ばかりに目をむけていた自分が日本文化にあまりにも無知であるを思い知らされたこと、太平洋をへだてて東アジアのなかの日本を見つめなおしてみたいと考えたことなどであった。外国に来る日本人の日本イズム（お茶、お花、禅）を外国へ押し付ける時代錯誤的ナショナリズムに対して嫌悪を感じて、日本人が真に自国の文化を理解するために、まず日本の文化を東アジア、さらに世界文化のなかで理解することから始めてみようと考えたのである。

『源氏物語』はいうまでもなく、世界最古の小説であり、また女性作者によってつくられたという点で、日本人ならだれでも誇りに思う日本の代表的文学作品である。物語の複雑な感情の入り乱れは、すなわち登場人物と女房の語り手との複雑な係わりのなかで微妙な心象風景が表現されているが故に『源氏物語』の奥深さが人々を魅了してきた。12世紀の国宝『源氏物語絵巻』ではこの心理描写をどのように絵画化したのか。この問題を普遍的問題としてとらえることで日本人の思考性がすこしでも理解できればという思いで国宝『源氏物語絵巻』を博士論文でとりあげてみた。

### 1. 『源氏物語』英訳と源氏物語研究

#### 『源氏物語』英訳

英訳には以下のような出版がある。

Aruther Waley, trans. *The Tale of Genji by Lady Murasaki*, 6 volumes, Boston and New York: Houghton Mifflin Company, 1926-1933.

Edward G. Seidensticker, trans. *Murasaki Shikibu, The Tale of Genji*, New York: Alfred A. Knopf, 1976

Royall Tyler, trans. *The Tale Genji, Murasaki Shikibu*, 2 volumes, New York: Viking, 2005.

Seidenstickerの本には山本春正筆の絵入本『源氏物語』全図226図が掲載されている。Tylerの英訳がでるまでの約30年間は『源氏物語』の文学、絵画を研究するにはSeidenstickerの英訳は必読書であった。

#### 『源氏物語』研究

コロンビア大学で教鞭をとったSeidenstickerの学生たちが、北米の『源氏物語』研究を活発にさせた。また日本の物語研究グループの学者との交流も盛んで、以下のような物語の新しい解釈研究の成果が出始めた。それ以前の初期的紹介程度のレベルから、日本と肩を並べる水準の高い研究書へと『源氏物語』研究は高まり、日本語に翻訳されている研究書もある。代表的な研究書、梗概書を以下に挙げる。

Haruo Shirane. *The Bridge of Dreams: A Poetics of 'The Tale of Genji'*, Stanford, California: Stanford University Press, 1987.

\_\_\_\_\_. ed., *Inventing the Classics: Modernity, National Identity, and Japanese Literature*, Stanford, Calif: Stanford University Press, 2000.

International Symposium organized by Haruo Shirane and Melissa McCormick, Columbia University, March 25-26, 2005, "The Tale of Genji in Japan and the World: Social Imaginary, Media and Cultural Production," Art Historical Panels: Visualizing the Tale of Genji: Power and Material Culture; Popular Culture, and the Classics in the Edo Period

Norma Field, *The Splendor of Longing in the Tale of Genji*, Princeton: Princeton University Press, 1987

Richard Okada, *Figures of Resistance: Language, Poetry, and Narrating in the 'Tale of Genji and Other Mid-Heian Texts'*, Durham and London: Duke University Press, 1991.

Doris Borgen, *A Woman's Weapon: Spirit Possession in the 'Tale of Genji'*, Honolulu: University of Hawaii Press, 1996.

Janet Goff, *Noh Drama and The Tale of Genji: The Art of Allusion in Fifteen Classical Plays*. Princeton: Princeton University Press, 1991.

Andrew Pekarik, ed. *Ukifune: Love in the Tale of Genji*,

New York: Columbia University Press, 1982.  
Patrick W. Caddeau. *Appraising Genji: Literary Criticism and Cultural Anxiety in the Age of the Last Samurai*. Albany: State University of New York, 2006.

以下の3冊は梗概書、教科書の機能を果たす。

Edward Kamens, ed. *Approaches to Teaching Murasaki Shikibu's The Tale of Genji*, New York: The Modern Language Association of America, 1993

William Puette, Guide to *The Tale of Genji by Murasaki Shikibu*, Tokyo: Tuttle, 1983.

Richard Bowring, *Murasaki Shikibu: The Tale of Genji*. Cambridge: Cambridge University Press, 1988

## 2. 美術史から見た『源氏物語』絵の研究と展覧会

### 各場面ごとの図録化

先ずは国宝『源氏物語絵巻』が当時コロンビア大学日本古典文学教授だったIvan Morrisによる豪華版として出版された。(Ivan Morris, *The Tale of Genji Scroll*. Tokyo: Kodansha International, 1971.) さらに1983年にはコロンビア大学教授であったMiyeko Murase (村瀬実恵子)によってニューヨークのアジア・ソサイエティでEmaki展が開催され、五島美術館蔵の『源氏物語絵巻』「御法」の場面が出品された。Miyeko Muraseは以下のような『源氏物語』絵関係の図録及び本も出版している。

Miyeko Murase, *Emaki: Narrative scrolls from Japan*, New York: Asia Society, 1983.

\_\_\_\_\_, *Iconography of The Tale of Genji: Genji monogatari ekotoba*, New York: Weatherhill, 1983.

\_\_\_\_\_, *The Tale of Genji: Legends and Paintings*, London: British Museum, 2001

2番目の *Iconography of The Tale of Genji* は大阪女子大学所蔵『源氏物語絵詞』の内容、すなわち各場面の図様の説明文を英訳し、さらにその部分のSeidenstickerの英訳を引用したものをいれ、絵画化された作品例を紹介するという画期的な本で、このような英文による源氏絵の多様な紹介本は、その利用価値ははかりしれない。

### 『源氏物語』絵の個々の作品に焦点を絞った研究

以下に主要論文を挙げておく。

Julia Meech-Pekarik, "The Artist's View of Ukifune,"

Andrew Pekarik, ed. *Ukifune: Love in the Tale of Genji*, pp.173-216.

Sarah E. Thompson, "A Hakubyō Genji Monogatari Emaki in the Spencer Collection," MA thesis, Columbia University, 1984.

Melissa McCormick, "Genji Goes West: The 1510 "Genji Album" and the Visualization of Court and Capital," *The Art Bulletin*, Vol. 85, No. 1 (2003), pp. 54-85.

メリッサ マコーミック『国華』1222 (1997), 『国華』1241 (1999)

メリッサ マコーミック「源氏の間を覗くー『白描源氏物語絵巻』と女房の視座」、『描かれた源氏物語』翰林書房 2006年

Masako Watanabe, Dissertation: "Narrative Framing in Handscrolls and the *Tale of Genji Scrolls*," Ph.D. Art History, Columbia University, New York, 1995

\_\_\_\_\_, "Narrative Framing in the Tale of Genji Scroll: Interior Space in Comartmentalized Emaki." in *Artibus Asiae* Vol. 58, ½ (1998), pp. 115-145.

渡辺雅子「江戸の見立て絵と女三宮ー雅俗イメージの変容」『源氏物語と江戸文化』森話社、2008年

以上のなかから、ハーバード大学のMelissa McCormick (メリッサ マコーミック)の *Art Bulletin* に掲載された研究とコロンビア大学に提出した私の博士論文について簡略に紹介しておく。メリッサ マコーミックの論文は『源氏物語』絵制作の事情がよくわかる重要史料を見つけ、提示している。『源氏物語』絵研究にとっては必読の論文である。ハーバード大学所蔵の土佐光信筆『源氏物語画帖』は、周防の大内藩家老陶三郎が京都で三条西実隆に依頼し、実隆周辺の公家を中心に詞書がなされたことなどがわかる貴重な作品であることがわかった。この作品は京都の王朝文化サロンと武士の王朝文化への憧憬とが結びついた作品ということで、他の『源氏物語』の画帖、絵巻を理解するうえで貴重な作品と言える。

私の博士論文は徳川、五島本の国宝『源氏物語絵巻』を中心に、絵巻という形態でどのように複雑な心理小説を絵画化したかをテキストの構造と絵画の構図との関係を検討しながら、提示したものである。ことに段落形式の画面ではテキストを読んだ直後に絵を見ながら反芻することになり、絵は決して説明的な描写ではなくむしろ抽象的図様である。登場人物は紙人形のように動きもなく、個性的表情もなく、幾何学的にアレ

ンジされた室内に配置されている。この暗示的表現が読者をドラマの世界へと誘い、さらに、登場人物の感情へと移入させていくことができるようになっている。曖昧模糊とした表現であるが故に読者の主体性にまかせて、奥深いところへと絵を読み解いていくのである。それはまるで複雑に織り成すテキストを読み込んでいく過程に相応するかのようである。日本人の思考の特徴とも言える両義性がここにも示されていると示唆している論文である。

### 3. 米国にある重要な『源氏物語』絵の展覧会

大々的な『源氏物語絵展』という特別展は北米では現在までには企画されなかった。しかし小規模な『源氏物語絵』展は以下のように開催された。

Yoshiaki Shimizu, *Genji, the world of a Prince*,  
Bloomington: Indiana University Art Museum, 1982.  
(図録も出版)

Miyeko Murase and graduate students of the Columbia  
University, "Courtly Romance in Japanese Art: Part  
Two: The Tale of Genji," The Metropolitan Museum  
of Art, 1988.

Masako Watanabe, *The Tale of Genji: Splendor and  
Innovation in Edo Culture*, Herbert F. Johnson  
Museum, Cornell University, 1997 (図録も出版)

これらの展覧会は北米の美術館やコレクターの所蔵作品で構成されている。ほとんどの作品が桃山江戸時代の制作で、室町時代の作品はわずかに含まれている

にすぎない。私が企てたコーネル大学での展覧会は江戸時代の見立てや能装束を含めた「江戸時代の源氏物語絵の伝統と革新」という特別展に合わせて、カレン・ブラゼル教授と共同で、「源氏物語と能」というテーマの日本古典文学セミナーをもった。

最後に現代のアメリカ人作家 Helen Frankenthaler (Abstract Impressionist の作家 Robert Motherwell の妻) の作品 "In homage to Murasaki Shikibu's The Tales of Genji" を紹介しておきたい。以下の Website で作品がみられる。<http://artscenecal.com/ArticlesFile/Archive/Articles1998/Articles0498/HFrankenthalerA.html>

不思議なことにこれこそが『源氏物語』のとらえどころの無い美意識の本質がアメリカ人の作家によって可視化された稀有な例といえるのではないだろうか。

### 結び

「日本的」という強制的範疇がつくられるときに外国に無理やりに京都でみかけるようなお土産的趣味のものが入ってくる。禅やお茶、お花などはいわゆる“日本的文化”として日本から押し付けられているほどには『源氏物語』は北米には浸透していない。徳川美術館、五島美術館の国宝源氏物語絵巻展に長蛇の列ができるほどの源氏熱は外国ではまったくないのである。したがって北米では太平洋の向こう側の日本をながめて冷静に、客観的に読み込んでいける環境がある。その環境のなかで『源氏物語』絵を読み込む作業をすることで日本の曖昧美学がわかり始めた気がする。

わたなべ まさこ／メトロポリタン美術館 アジア美術部主任研究員